

— 大谷敏弥 議員 —

高齢者の孤立をなくすには

(町長) 支え合うまちづくりを進める

大谷 地域家族の時代で、少子高齢化を踏まえ、これからは家族に代わる新たな人間関係に繋がりがなくと多くの人が孤立した暮らしになる。

同じ地域に住んでいる人たちが家族同様に支え合うことの大切さ、居場所づくり、役割づくりも理念の柱だ。孤立の解消を目指すには。町長の所信を伺う。

町長 少子高齢化が進むなか、1人暮らしや認知症、高齢者が増加傾向にある。

住民参加による地域づくりを通じ、地域住民の社会的孤立を防ぎ、可能な限り住み慣れた地域で

暮らし続けられるような仕組みづくりが大切だ。

現在、平成29年度までを計画期間とした長万部町高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画を策定し、共に支え合い長寿で豊かなまちづくりを基本理念とし、各種福祉、介護事業を進めている。

主な施策では、健康教育や介護予防事業、老人クラブ育成、介護保険サービスの充実、給食サービスのはじめとする自立生活支援の充実に努めている。また各町内会では、地域敬老会や高齢者を対象とした食事会、レクリエーションも行われている。

今後も、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画に基づき、生きがいと健康づくりや安心して暮らせる環境づくり、多様な暮らしを支え合うまちづくりを進め、高齢者が孤立しない地域づくりを進めていく。

大谷 色々な施策を策定しているが、やはり地域のことは地域が、町内会のことは町内会が良く知っている。これからは超高齢化の時代になり、孤立を解消する居場所づくり、町内会や老人会の活動が大きなウエイトを占める。声かけ運動、各地域で活動している地域づくりの人材の交流を

図り、人と人とのつながりを強めていく必要があると感じているが、いかがか。

町長 各町内会で敬老会を開催しているが、参加者が少なく、色々苦^く心^{しん}惨^{さん}憐^{れん}をしながら、声かけ運動、参加の促しをやっている。

声かけ運動は大切であると思うっており、新聞やダイレクトメールが郵便受けに溜まっているような状況の際は通報していただくよう、各メーカーや企業、団体と連携をし、孤立のない閉じこもりのない社会づくりを進めていきたい。

大谷 住民から選んだ地域の調整役が、地域のアンテナとなり孤立世帯の把握に努め、必要な支援に繋げていく。課題をかかえる世帯がどこなのか情報収集し、

介護相談に応じ、行政機関に導いていくというのはどうか。

町長 民生委員も各地域におり、それぞれネットワークを持ちながら地域の状況を把握し、担当課に連絡を入れ、十分対応していると思うている。より一層のネットワークを通じて広げていければと思うので、今後、それらを含め検討したい。



デイサービスセンターを利用する方々